2020東京オリンピック タスキをつなぐパラリンピックへ

1年の延期を経て開催された東京オリンピック（7月23日～8月8日）が無事に終了した。金メダル27個、総メダル数58個という輝かしい結果は、もちろん日本新記録。計り知れない努力に裏打ちされた選手たちの姿は、見る者に感動と興奮を与えてくれた。本紙で2019年、2020年にインタビューをした4人のアスリートから熱いコメントが届いた。

戸邊直人さん（走り高跳び）野田市出身（専大松戸高～筑波大～筑波大大学院～JAL）

鮮やかなオレンジのユニフォームが目に眩しい。7月30日の予選、2メートル17センチからスタート。順調に高さを上げていき2メートル28センチをクリアし、日本人では49年ぶりの決勝進出が決定。決勝では、2メートル24センチの挑戦で敗退。助走、踏み切りのタイミングが合わなかったが、力強い跳躍を見せてくれた。2メートル35センチの日本記録保持者でもある。

東京オリンピックを終えて

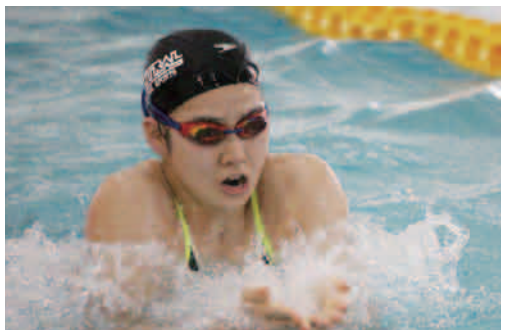
「今回のオリンピック出場にあたって、多くの方々から暖かいご声援をいただきました。ありがとうございました。目標としていた金メダルには届かず悔しい結果となりましたが、日本代表として49年ぶりとなる決勝進出を果たせたことを誇りに思っています。また、延期となった1年間は苦しい期間でしたが、それを乗り越えてオリンピックに挑戦した経験は今後の人生における糧になると思います。競技者としては次のパリオリンピックに向けて、また頑張っていきたいと思います。今後ともご声援よろしくお願いします」

寺村美穂さん（競泳女子200メートル個人メドレー）流山市出身（千葉商科大付属高～日本大～セントラルスポーツ）

リオに続いて2度目のオリンピック。力の抜けたスムーズな泳ぎで予選通過。2分11秒22。準決勝は、今回金メダル2個を獲得した大橋悠依選手と同じ組。力強い泳ぎを見せ、得意の平泳ぎで挽回するも結果は7位。2分12秒4。惜しくも決勝へは届かなかったが、競技人生の集大成を飾ったレースだった。

2度目のオリンピック出場。全てやり切った

「前回のオリンピックとの違いは、東京開催なので時差もなく環境も変わらず普段どおりに臨むことができました。しかし、無観客という今までにない状況で、歓声がないのは少し寂しく感じました。会場や選手村で日本のボランティアの方々が優しく声をかけてくださり、この大会はいろんな方々の支えがあるからこそ成り立っていると感じ、また同時にこの場に立てる幸せを噛みしめました。結果は目標には届きませんでしたが、オリンピックへの日々は本当に充実し、やれることは全てやり切ったことが一番良かったことだと感じています。1人でも多くの人に自分の泳ぎで勇気や希望を与えることができていたらとても幸せです。たくさんの応援を、本当にありがとうございました」



大岩千未来さん（新体操個人総合）野田市出身（あずさ第二高～国士舘大学、イオン新体操クラブ）

8月6日予選。先ずボールは、身体の曲線に沿ってなめらかに滑らせる。次のフープでは200度以上の開脚を披露。3種目目はリボン。赤いリボンのカラーとレオタードのカラーが美しく、可憐な演技で見る者を魅了。最後のクラブは、柔軟性の持ち味を生かした演技だった。単身ロシアでの修行の成果も見られた。結果は、決勝進出ならず。が、次も狙える19歳。

夢の舞台での喜び

「オリンピックは、自国開催と無観客が重なりすごく緊張してしまい、4種目とも自分の思い通りの演技ができずに悔しい結果となってしまいました。ここまでの練習もかなり追い込み故障などはありましたが、自分の中ではやり切れたと思います。この舞台に立ち、夢を叶えることができて嬉しい気持ちでいっぱいです。そして、何故失敗してしまったのかを自分の中でしっかり考えて反省し、次に活かしていきたいと思います。1種目目の失敗からの切り替え方や、少しずつでも自分らしい演技が出来てきて、最後の種目ではやっと思い切り演技する事ができたので良かったです。沢山のご声援ありがとうございました」

夢、ふたたび。2020東京パラリンピック

廣瀬隆喜さん（ボッチャ）君津市出身（千葉県立袖ケ浦特別支援学校～西尾レントオール）

パラリンピック4大会連続出場を決めたボッチャ界のレジェンド・広瀬隆喜さん。熟練の技が見どころだ。8月28日から競技スタート。会場に響き渡る「投てき時の雄叫び」を聞ける日は近い。リオでは混合団体で銀メダル、今度は金メダル目指してがんばれ！

―前回のオリンピックと今回の大会で気持ちは違いますか？

「自国開催ですし、今回は、たくさんの方々に応援していただいていることを実感しています。初めて放送もあるようですので、多くの皆さんにボッチャを見ていただきたいと思っています」

―試合に対する意気込みをお願いします。

「ボッチャはひとりでは戦えない競技なので、スタッフや、サポートしてくださる方々、応援してくださる皆さんと一丸になって戦い、チャレンジ精神を持ってメダル獲得を目指します」

―千葉県の皆さん、出身地のご友人、恩師に一言お願いします。

「いつも、応援ありがとうございます。今はなかなかお会いできていませんが、大会では、皆さんに熱いプレーを見せたいと思います。皆さんの応援が、いつも力になっています。応援よろしくお願いします！」

（取材・文＝高井さつき／写真＝高井信成）

第74回東葛駅伝 10月16日に無観客で開催

松戸・柏・我孫子・野田・流山・鎌ヶ谷の東葛6市の公立中学校が参加する東葛駅伝が2年ぶりに開催されます。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客開催とし、開閉会式、表彰のセレモニーなどは行われない方針です。

スタートは松戸市民劇場、ゴールは野田市総合公園陸上競技場。

今年は柏市立柏の葉中と県立東葛中の2校が初参加、合計73校が出場予定。

■第74回東葛飾地方中学校駅伝競走大会

日程：令和3年10月16日(土)午前10時スタート（雨天決行）荒天の場合10月17日(日)

※緊急事態宣言または同等の宣言が千葉県及び東葛飾地方に発令された場合は中止を視野に入れ、主催者が判断します。

今後の情報は「東葛まいにち」ホームページで随時掲載予定。

2019年野田市総合公園陸上競技場スタートの様子

モラージュ柏×マルバカップ ミニサッカー大会

7月25日(日)、モラージュ柏×マルバのミニサッカー大会がモラージュ柏屋上のFFCモラージュ柏で行われた。

今回の大会はマルバ各校の参加希望選手とビジターの小学1・2年生9人と3・4年生19人、全28人が参加。

9時10分から3・4年生が試合を開始。3チーム(グリーン・グレー・オレンジ)が総当たり戦一試合6分1本で対戦。

11時5分から試合開始の1・2年生は、3チーム(緑・黒・グレー)に分かれ、一試合5分で進められた。

試合開始時の気温29度晴れ、すぐに気温は30度を越え、うだるような暑さの中での試合となった。

3・4年生準決勝ではグリーンチームとオレンジが対戦。6分の試合では結着がつかず、PK戦へ。見事グリーンチームがPKを3本とも決め、決勝へ。決勝のグリーンチームとグレーチームの試合は接戦で、グリーンチームが貴重な1点を取り優勝を勝ち取った。

1・2年生準決勝では、グレーチームと黒チームが対戦。PKの末、緑チームが決勝戦へ勝ち進んだ。決勝のグレーチームと緑チームの試合では、グレーが果敢にゴールにシュートを放つも得点に結びつかず、緑チームが1点を入れ優勝した。

各選手「声出して」「空いてるよ」と言う掛け声で回りを見ながらのパスが出来た試合だった。

東京2020オリンピック開会式の二日後の試合と言うこともあって、今大会の優勝チームに渡された金メダルを選手たちは誇らしげに掲げていた。

今後も大会は定期的に続けられる予定。参加方法などの詳細はマルバサッカースクールホームページの『イベント情報』からご確認を。

3・4年生

1・2年生

3・4年生　優勝　グリーンチーム

1・2年生　優勝　緑チーム

お問い合わせ↓

malva サッカースクール ホームページ